

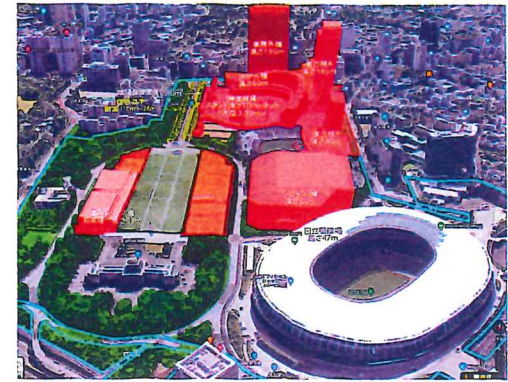
## 問題だらけの神宮外苑地区再開発 MAP

神宮外苑地区では「東京2020大会後の神宮外苑地区のまちづくり指針」(2018年東京都策定)に基づき、港区と新宿区にまたがる約28.4ヘクタールの地区を都市計画変更した、13年にも及ぶ大規模再開発が進行しています。神宮外苑は創建時から戦後を通じ、風致地区の規制によってその景観と環境が守られてきました。しかし、五輪開催のため国立競技場の建て替えを機に始まった大幅な規制緩和はエリアを拡大し、神宮外苑の貴重な歴史的樹木を伐採し、超高層ビル3棟が建つという計画は、多くの環境破壊や住民被害の問題を抱えたまま進んでいます。

屋根つき&人工芝ラグビー場建設のため貴重な樹林は3分2が伐採、生態系としての森は失われる。

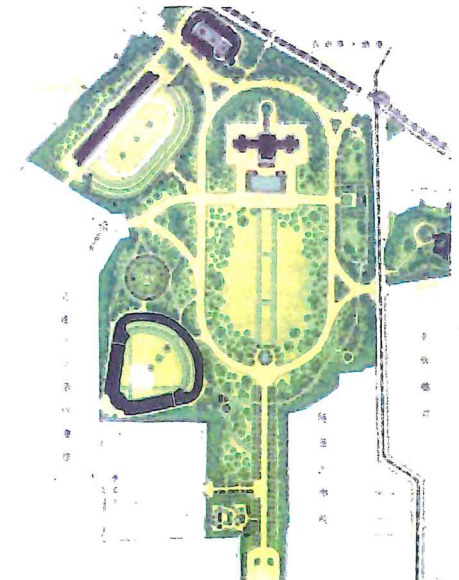
広場両側にテニスコートが作られ、200本以上の樹木が伐採される

超高層ビルや巨大施設が建ち並ぶ再開発後のイメージ



緑豊かな創建当時の明治神宮 (出典：明治神宮外苑志)

明治神宮外苑は、明治天皇崩御の後、国民の憩いの場となることを目的として整備された、近代日本における初の本格的西洋式庭園です。広く国民から集められた献金と献木、また青年団の勤労奉仕によって造営され、1925年(大正15年)に竣工し、その施設は、明治神宮に奉獻されました。



※この図は高さ3mを超える現存樹木のみ表示、それ以下の低木植栽や新たに植樹される木については表示していません。